

### 新型コロナウイルス感染拡大の防止について

現在、新型コロナウイルスの爆発的な感染拡大が全国的に見られます。教育活動に対する様々な不安がある中、先生方におかれましては、子どもたちの安心・安全な生活を第一に、最大限の配慮をいただいております。先生方のきめ細かな指導により、日々の教育活動がしっかりと保障されておりますことに改めて感謝いたします。今後も引き続き、「自分自身と大切な人の命を守る」ため、感染対策の徹底に御協力いただきますようよろしくお願いいたします。

### “オーダーメイド訪問”をぜひ御活用ください

「先生方と一緒に、子どもたちの学力向上について考えていきたい。」

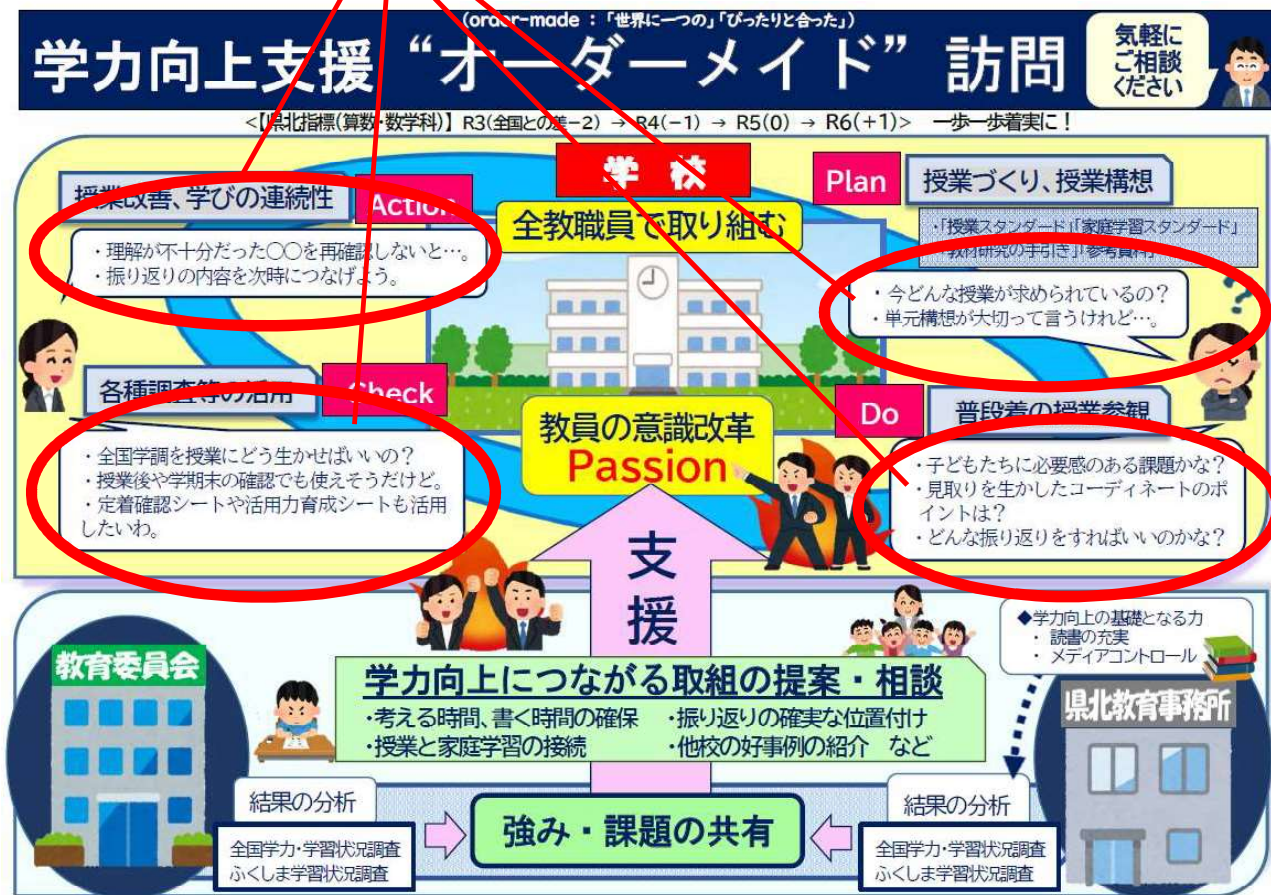
「子どもたちの学力向上のため、事務所で何かできることはないだろうか。」

という思いから、各学校や市町村教育委員会の希望に応じ、昨年末から「オーダーメイド訪問」を行っています。

ねらい:「日々の授業の改善を通して、児童生徒の『分かる・できる』喜びや達成感を高め、学習意欲と学力の向上を図る」

一緒に考えていきましょう。ぜひ、気軽にお声がけください

各学校のニーズに合わせた、まさにその学校一点物の「オーダーメイド」となる訪問を進めていきたいと考えています。次のような悩みをお持ちの学校はありませんか？



オーダー、承ります。

教育広報

# 県北の教育

発行所  
福島県教育庁県北教育事務所  
福島市杉妻町2番16号  
電話024-521-2813  
発行者 長谷川 浩文

### 巻頭言

「親孝行したいときには親はなし～今更思う父・母の無償の愛～」

県北教育事務所 総務次長 佐藤 裕一郎

私事で恐縮だが、令和3年は父の三十三回忌、母の七回忌であったが、コロナ禍でやむなく一年延期した。そのためか見たこともない父・母の夢を見た。父は私が生まれたのを機に会津若松に戻って、小さな工務店を始めた。それまではゼネコンの現場監督として全国の工事現場を転々としていたという。父の工務店は、2tトラック1台と必要最低限の資機材をそろえ、主に地元土建会社の2次、3次の下請をしていたと思う。経理と営業は母が一手に担っていた。両親はいつも資金繰りに四苦八苦していたようである。母は幼い私を連れて、工面した金をもって、振り出した約束手形が不渡りにならないよう時間外の銀行に通用口から入れてもらって届けたこともあった。私の小中学校の夏休みの思い出といえば、毎日のように学校のプールに通ったことと父の工事現場の手伝いをさせられたことぐらいである。しかし、時には手伝いが終わって、母と洋食屋でナイフとフォークに緊張しながら、ハンバーグか何かを恥ずかしそうに食べたこと、毎年、夏休みの終わりには手伝いの御褒美として、野球のグローブ、ウサギや犬などの動物、当時流行のフラッシュ付き5段変速の自転車など、その時々でほしかったものを買ってもらって嬉しかった思い出もたくさんある。時代はまさに昭和40年代の高度成長期、真っ只中であった。

しかし、当時の私は両親の職業が嫌であった。恥ずかしかった。偏見さえもっていた。ある時、父から、「裕、父ちゃんの仕事を継がねえが。」と冗談とも本気ともつかぬ問いかけをされたことがあった。幼い私は即座に、「やっちゃぐね〜。きたねえし、かっこわり〜も。」と、ある意味素直に答えた。そのときの父の気持ちは、いかばかりであったろうと思う。そして父は二度と跡を継げとは言わなかった。

このような子どもの頃の父・母との思い出や当時の私の気持ちが、この歳になって夢の中で走馬灯となって鮮明に蘇った。夢の中で私は、父・母の存命中には言えなかった「父への詫言と父・母への感謝の気持ち」を素直に伝えることができた。そして、夢から覚め、今更ながらつくづく思った。「親孝行したいときには親はなし。」と。

親御さんが御健在な皆さん、皆さんが今あるのは、御両親が見返りを求めない無償の愛情を注いでくれたからにほかなりません。親御さんに感謝の言葉を一言でいい、心を込めて、照れずに伝えましょう。それが最高の親孝行だと思っております。

小・中学生のお子さんをお持ちの方も大勢いらっしゃると思います。皆さんが、日々懸命に生きている姿を見せてあげてください。お子さんはあなたの姿から多くのことを学ぶことでしょう。

「でも一所懸命だけでは疲れてしまう。一本道ではつまらない、時には、回り道や道草をすることも決して無駄なことではなく、その後の人生をより豊かなものにしてくれるであろう。」ことを伝えることも忘れずに・・・。



### 「数学は忍耐である」

県北教育事務所 業務次長 小野 真教

「数学は忍耐である」  
この言葉はとても身にしみる。  
中学校時代、数学が大の苦手だった私が志望校に合格するために、なんとしても数学の点数を60点から90点に上げなければならなかった。考えた方法は、あさはかで単純。問題集を買い、隅から隅まで3回以上やることだった。買った問題集は厚さの異なる3冊。今思えば、短絡的な発想だったが、「決めたからにはやる！」という意地だけで取り組み始めた。でも、これが大変。時間はかかるし、わからないことだらけ。苦痛でしょうがなかったが、目標達成のためにとにかく耐えた。わからなければ、優秀な友達をつかまえて休み時間に教えてもらい、時には友達の家におしかけて教えてもらった。3冊3回終わるまでに約6ヶ月かかったが、半年後の中間テストで自分史上初の96点を取ったときのことは、今でも鮮明に覚えている。

この言葉は、「天才」(マルコム・グラッドウェル著)の中の一節である。こんなことも書いてある。  
「数学は能力ではなく態度である。試みることを厭わなければ、数学が得意になる。(中略)成功とは粘り強さ、辛抱強さ、勤勉を厭わない意識の結果であり、それらがあれば、たいていの人が30秒で投げ出すことに22分もかけて取り組める」

だからといって数学が苦手な子どもたちに、問題練習にこれでもかというほど取り組ませればよいというものではない。私は点数アップの解決策がわからず、自分なりに考えた苦肉の策だった。もっと他に効果的ないい方法があったと思う。

ところで、今年度の全国学調の算数・数学科の結果は大変残念なものだった。算数・数学科の学力向上策を県、市町村、学校と本気になって考えずで実行に移しているところもあると思う。もちろん、要となるのは教師の授業力向上である。しかし、漠然と授業力向上といっても埒があかない。すべての教員が取り組める何か、授業でこれだけはやるという何か等々、やるべきことをきちんと決め、全職員一丸となって取り組まない限り結果に結び付くとは到底考えられない。

過去の全国学調の問題を授業にリンクする形で解かせるのもよし、小学校3年生から既習を振り返らせるのもよし、授業のまとめと振り返りに力を入れるのもよし、毎朝個別指導の時間を設定するのもよし。成果が予想・期待でき、結果も伴う取組であってほしいと思う。私だったら…。

あんなに嫌いだった数学が、あの時以来好きになった。  
「数学は忍耐である」 とても身にしみる。

### ◆◆ 不祥事、学校事故・教職員事故減少のために ◆◆

本年度も県北教育事務所として「不祥事0」「学校事故・教職員事故等の減少」を目標に掲げ、各校において実効的な取組をお願いしてきました。しかし、残念ながら、飲酒運転による懲戒免職処分をはじめ、パワハラや定期テストの答案紛失などの不祥事が発生しました。また、交通加害事故や教職員の負傷事故も報告されています。不祥事の中には校内での取組や手順を見直し確認することで、未然に防ぐことができたものも多くありました。10月に配付いたしました「教職員の皆さんへ」を再度確認し、教職員一人一人が危機意識を高くもち、未然防止に努めていただくようお願いします。

#### ○情報管理の徹底を

年度末は事務処理が煩雑になる時期です。紙媒体、電子媒体を問わず、情報の紛失、流失防止のため、各校で定められている情報の取扱いの手続きを全職員で確認してください。

#### ○交通事故の防止

例年より雪が多く、積雪や路面凍結によるスリップ事故が心配されます。心や時間に余裕をもった運転を行いましょう。また、停止線での一時不停止や横断歩行者妨害違反での取り締まりが強化されています。横断歩道での歩行者の安全確保に、より一層努めてください。



### ～～ メンタルヘルス対策を ～～

年々、心身の不調により業務に支障をきたし、病休休暇、休職に至る例が増えてきています。心の健康づくりにおいては、教職員自身が、まずストレスに気付き、これに対処する「セルフケア」が重要なこととされています。福島県教育委員会では、教職員の心の健康の保持増進を図るため、公立学校共済組合福島支部と連携しながら、相談員による「教職員相談」や県内医療機関での「こころとからだの健康相談事業」などを実施しています。教職員一人一人が心の健康問題に関心を高め「セルフケア」を実践するとともに、同僚の健康の変化を捉え、積極的にコミュニケーションをとるなど、よりよい職場環境作りに努めていきましょう。

公立学校共済組合福島支部 <https://fishbowlindex.jp/psfukushim/>



### 令和3年度 第50回福島県教職員研究論文表彰式



今年度、県北域内では8点の応募がありました。いずれの論文からも先生方が自校の課題をしっかりと捉え、日々の教育活動に計画的且つ真摯に取り組まれている様子がうかがえました。受賞者並びに応募された方は次のとおりです。

- 【入選】◇個人研究 学習指導 (音楽科) 福島市立平野小学校 教諭 稲毛 光司  
〈思考力・判断力を育む音楽科の授業改善～子どもの音楽観を広げる音楽活動を通して～〉
- 【奨励賞】◇共同研究 学習指導 本宮市立白岩小学校 (代表) 校長 鈴木 茂  
〈安全・安心な社会づくりに貢献できるこころ豊かな子どもの育成(2年次)  
～教科等横断的な視点による資質・能力の育成と活用を通して～〉

#### 【応募者】

- ◇個人研究 学習指導 (図画工作科) 川俣町立福田小学校 教諭 八巻 千咲
- ◇共同研究 学習指導 伊達市立伊達東小学校 (代表) 校長 緑上 隆
- ◇共同研究 学習指導 伊達市立保原小学校 (代表) 校長 堀部 誠
- ◇個人研究 学習指導 (国語科・算数科) 二本松市立新殿小学校 教諭 齋藤 佑亮
- ◇共同研究 学習指導 伊達市立伊達中学校 (代表) 校長 岡崎 秀一
- ◇グループ研究 学校経営 福島県立大笹生支援学校研修部 (代表) 教諭 富村 祥子



### ふくしま学力調査における聞き取りから～絶対に学びを振り返らせたい!～

私たちが学校を楽しくないと、子どもたちも楽しくないと思うんです。

子どもたちってすごいんです。

子どもたちががんばった、できるようになった姿を必ず褒めるようにしています。



これらは、「ふくしま学力調査」において大きな伸びが見られた学校の先生方の言葉です。その言葉一つ一つには、子どもたちへの愛情と情熱があふれていました。「伸びの大きかった学校では、どんな取組をしているのだろう。何か大事にしていることがあるはず。」そんな思いから始まった聞き取りです。聞き取りを行っていくと、いくつかの共通点が見えてきました。その一部をまとめたのが下図になります。日々の実践の参考になることはありませんか。

＜ふくしま学力調査において伸びの大きかった学校への聞き取りから(県北)＞

<p>自分の考えを表現する活動</p> <p>「書く」「話す」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の考えを書かせることで、考えがまとまり、整理したりできる。 → 「書く」ことは考えること。</li> <li>○ 全教育活動を通して、行っている。目的意識・相手意識を必ずもたせる。→必要感</li> <li>○ 式と言葉で説明を書かせる。(算)</li> <li>○ 「どうしてそう考えたの?」「説明できる?」と問うことで、自分の言葉でもう一度説明させる。</li> <li>○ ふさわしい言葉、文のねじれや誤字脱字は根気よく徹底して指導してきた。 → ありきたりの言葉ではなく、言葉を吟味して使えるように。</li> <li>○ 全国学調や定着確認ノートや、活用力育成ノートを使って文章を書く時間を取る。→必ず添削</li> </ul>	<p>一緒に解決する「話し合い」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 子ども同士で解決させる時間を取る。</li> <li>○ 最初から、相手を批判しないで耳を傾けることを大事にしている。特活の学級活動の経験が生かされている。</li> <li>○ 友達の考えは自分の考えを深めてくれるもの。(進んで意見を求める姿)</li> <li>○ 分からないことが言える、友達に説明する。 → 一緒に分かるようになる。 → 自分の考えを再構築</li> </ul>	<p>自己の学びを見つめる「振り返り」</p> <p>子どもも、先生も</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ (まとめと振り返りは分けて)自分の言葉で振り返りを書かせる。 → 自分がどのように学んだのかわかる。</li> <li>○ 振り返りには新たな「気づき」が書かれていることがある。それを拾って他の子どもたちに広げる。 → はじめは「分からなかった」…くらいしか書けなかったが、どんな視点で書けばよいか分かり、進んで書けるようになった。 → 次の学習、他教科につなげる。</li> <li>○ 振り返りの時間は、子どもたちが分かっているかどうかを知るために、絶対に必要なもの。絶対に書かせたいので、ここから授業を考えている。</li> </ul>
<p>全校で! 取り組む 分析、課題</p>	<p>必ず ほめる! がんばった、できるようになった姿を価値付け</p>	<p>続ける! 大事なことをしっかり</p>



### 初任者研修

～思いをつないだ初任者組の学級会～

本年度、小学校33名、中学校6名、養護教諭1名の初任者を対象に、地区別研修等を実施しました。6月の授業研修①では、学級活動(1)の演習を行い、「絆が深まりみんなが頑張れるマークをつくらう」を議題に、話し合いました。

〔感想より〕  
○ 少数派の意見が飛び交うような雰囲気づくりが大切だと思った。  
○ 完成したマークを手に取り、嬉しくなりました。悩みを話せる仲間も、たくさんできました。協力して頑張ります。



〔自分の顔を描きました〕

### いじめ・不登校

～自己肯定感を高める～

12月9日に、令和3年度不登校・いじめ等対策推進事業「域別シンポジウム」を開催しました。

演題「不登校児童生徒の学習機会確保に向けた取組について」  
講師：福島市立信陵中学校 山田光裕 先生

県北域内の不登校は、増加傾向が続いています。講義の中で山田先生から、不登校児童生徒への対応や学習機会の確保、教育相談体制の強化や組織的対応の確立について、多くの示唆を得ることができました。感想の一部を紹介します。

- 自分で学習内容や学習環境を選べるのがよい。
- 生徒の居場所づくりが大切だと改めて感じた。
- 自分の学校にも不登校児童がいる。早速、真似したいと思うことがあった。まず、「信頼関係」をつくる。次に「希望」を与える。最後に「粘り強い心へつなげていく」。この3段階の支援である。

### GIGAスクール元年 ～個別最適な学習～

【未来の教室】(伊達市立伊達東小学校、桃陵中学校)

まずは使ってみて、うまくいかないときは止めてもいいという共通理解でスタートしました。教員も子どもたちと一緒に新たな挑戦が始まりました。「GIGA スクール元年」。1人1台端末の有効活用について全教職員で探っています。

【情報モラル教育】(国見町立国見小学校、県北中学校)

国見小学校では、SNSとの関わり方やタイムマネジメントについて、学級活動(2)を通して考えることができました。

県北中学校では、SNSのリスクマネジメントについて、カードを用いた学年授業や、学校全体でのいじめ熟議を通して考えることができました。



### キラリ学力向上推進校

本宮市立本宮小学校

～子どもも教師も学び合う～

本宮市立本宮小学校の研究推進は2年目を迎えました。

(研究主題:「主体的・対話的に学ぶ児童の姿を目指して」)

11月15日の授業研究会では、これまで積み重ねてきた授業実践をもとに、算数科、理科の授業が公開されました。

児童同士が積極的に関わり合いながら考えを出し合い、お互いが納得するまで熱心に話し合いを行うなど、自己の考えを深め、広げていく姿が見られました。

授業の終末では、振り返りの時間を十分に確保し、視点をもとに自己の学びの過程を振り返る姿が見られました。

また、教師集団が学び合う姿勢も感じられました。「子どもたちのため…」という思いを全員がもち、熱心に話し合う姿に「学びの変革」が進んでいることを感じました。



# 県北力

### 17字のふれあい事業 ～ふくしまの 想いを繋ぐ 17字～

【絆部門】	佳作	ママの手は わたしをいやす まほうの手 (小2)
		娘の手 温もりくれる 充電器 (母)
	佳作	一番の パワースポット 我が家です (中2)
		星五つ 娘の評価に 母ハッピー (母)
【ふるさと部門】	最優秀賞	富岡で 一緒に過ごす 夢かなう (小4)
		桜咲き 家族が集う 避難元 (祖父)
	最優秀賞	秋祭り みんなで輪になり オラドッコイ (小6)
		安達太良の 秋空に舞う 囃子の音 (母)

おすすめ!



絆部門 3,736点 ふるさと部門 1,813点 合計5,549点。本事業開始以来最高数の応募がありました。「家族で作ることが多くなった料理」「福島のおいしい野菜や果物」「コロナ禍で祖父母に会えない寂しさ・リモートで会える嬉しさ」「オリンピックの感動、福島で行われた野球・ソフトボール」「大きくなった自分の確認、子どもの成長」「震災から10年、浜通りのふるさとに寄せる想い」などをテーマにした作品が多く見られました。

### 道徳教育地区別研究協議会 二本松市立石井小学校

～つながれ ひろがれ 石井のわ～

二本松市立石井小学校は、昨年度より県北地区の推進校として、「家庭・地域とつくる道徳教育」を軸に、「自ら動き出す子ども」「つながる子ども」の姿を求めて、実践を積み重ねてきました。12月1日には、小・中・高・特別支援学校の教員105名が参集し、家庭や地域と共に推進する道徳教育の力強さについて、道徳科、学級活動(1)(2)、総合、生活単元学習の授業の中の子どもの姿を基に考えることができました。

ぼくは道徳で、お母さんの手紙を読んで感動しました。お母さんとお父さんがぼくのことをそこまで思ってくれたことに泣きそうになりました。家に帰ったらすぐに「ありがとう。お母さんとお父さんのお陰でこんなに大きくなったよ。」と言いました。



〔第4学年 道徳科 「家族の一員として」〕

参加型の授業は、見るだけでは感じ取れない考え、気持ちを知るよい機会でした。色々考えているうちに、今までの思い出がよみがえり、少し泣きそうになりました。保護者参加型の学習は、子どもにとっても親にとっても、とても意味があると感じました。

自己の振り返りを友達の母親に見せる姿

「学校だけで、子どもの道徳性を育てることができるのか。」この言葉が、研究の出発点でした。子どもが生活する家庭や地域と、目には見えないけれど、だんだん繋がり、広がっていく温かさを確かに感じました。



### 家庭教育支援者地区別研修

～親は子どもの鏡です!～

ネット社会において、子どもたちが様々なトラブルに巻き込まれる危険性が問題となっています。

本研修では、県北地区家庭教育テーマ「メディア(SNS)コントロールの在り方について」に関する講演や演習を通してネット社会の現状を理解し、子育て世代に向けた具体的なアドバイスの仕方を学びました。

また、iPad を使用してのフィルタリング設定の体験を通して、保護者が責任をもって子どものスマホを管理することの重要性を体感しました。家庭内でのルール作りの必要性について改めて考える貴重な機会となりました。



- スマホの契約者は保護者であり、ルール作りは保護者の責任です。大人にもスマホを使う際のルールが必要です!
- スマホ使用時の注意点及び危険から子どもを守るための術を知るとともに、スマホを介さない子どもとのコミュニケーションの取り方の工夫をしましょう!

### 小・中学校が連携した外国語指導

～伝えたい思いを英語で～

小中英語パートナーシップ事業は、本宮市立本宮第一中学校区で今年度から3年計画で推進していきます。

初年度の今年度は、12月8日に本宮第一中学校・本宮まゆみ小学校で授業公開を行いました。オンラインでの実施でしたが、域内外から71名の参加があり、先生方の外国語科・外国語活動への関心の高さを感しました。子ども自身が、相手に気持ちや考えを伝えたいと思い、積極的に英語を使っていくということがまずは大切です。

【研修者の声】

- ・ 子どもたちが学習したことを生かして、思いを伝える言語活動が設定されていて参考になった。
- ・ イギリスの中学生と英語で会話することで、気持ちや考えが通じ合うと生徒たちがどんどん笑顔になっていく様子が印象的だった。

【義務教育課指導主事からの指導助言】

- ・ 「言語活動」と「理解や練習するための指導」を区別し、バランスよく指導する。
- ・ 目的・場面・状況を明確にし、子どもたちに学ぶ必要感を持たせる。
- ・ 小・中学校の教師同士がそれぞれの授業を行っているか知る。

Good!